

森まゆみ対談

わたしがみつけたわたしのしごと

撮影Ⅱ大西成明

連載 第2回

企業とNPOの出会いを

エヌピーオー

平岩千代子

新薬開発のために日々犠牲となる

何百匹のマウスを見つけて生まれた疑問。

アメリカでの献身的なボランティアコーディネーターとの出会い。

これらの体験をバネに、

NPO活動を応援する平岩さんの素顔は、

常に前向きでエネルギーシユ。

他人にも自分にもストレスのない環境づくりのために、

颯爽と駆けていく。

医療情報を必要な人に

森 私たち二人とも、五年くらい「千代田区まちづくりサポート」の審査員をやっているんですね。税金を使わずに町づくりや地域研究の活動を支援し、ネットワークを広げていくという、とてもいいシステムですが、ふだんは平岩さんの個人的なお聞きする機会もないので、今回インタビューすることにしました。

電通総研の生活・文化部でNPO^{エヌピーオー}※Nonprofit Organization 民間非営利組織Ⅱボランティア団体や市民活動団体」の調査・研究を始めるまでのことを話していただけますか。

平岩 一九八七年に(株)電通総研に入りました。現在は(株)電通の一つのセクションですが、当時は独立した三十人ほどの組織でした。その頃はシンクタンク・ブームで、研究員の募集に応募したんですよ。大学では生物学が専攻だったんですけどね。

森 生物学を専攻されたというのは初めて聞きました。今とどういふつながりがあるの？

平岩 インターフェロン(抗ガン剤)が脚光を浴び始めた頃で、四年の時には、国立予防研究所でインターフェロンについて卒業研究を行いました。それがきっかけで、スイスに

本社がある製薬会社日本ロシユへ指導教授に推薦されたんです。ロシユは薬の先端的研究をすすめている会社で、スイスの研究所には利根川進さんがいらしたこともあるんです。ロシユの研究所で白衣を着て、マウスにガンを植えて薬効を見る実験をやっていました。

森 うわつ、それも初めて聞いた。

平岩 ガンを植えても、抗ガン剤をあたえない群はすごく元気。突然コロッと死にますが、死ぬ前日までケージの中を走り回っているところが抗ガン剤をあたえると、長くは生きています。副作用で、薬をあたえた翌日から毛が逆立ってくるんです。体温も低くなり、動き回れずにほとんど瀕死の状態。でも一日でも長く生きると、それは薬が効いたとされるんです。

森 わーっ、衝撃的な話ね。それはまさに人間にも当てはまることだものね。

平岩 そうでしょう。こういうのって変だと、もしこのマウスの姿を知っていたら、どれだけの人が抗ガン剤の治療を受けるだろうかと思っただけですよ。でも、患者にこのような情報は届かないですよ。私にはこうした知らせたい情報はあるけれど、伝え方を知らない。どうしたらいいのかと思索している時に、電通総研の募集があったんです。募集要項に、

人間にかかわる分野で、専門にとられない柔軟な研究をする人たちを集めると書いてあったので、情報の知らせ方、流し方が分かるかもしれないと思って応募しました。

アメリカでNPOに感化されて

平岩 当時、電通総研にはロサンゼルスでの三カ月の海外研修制度があつて、私もアメリカで本場のボランティアやNPOを見たいと思つて、九三年の夏にまだ知識もないまま行つてきたんです。

森 まだNPO法が定まる前ですね。NPOという言葉は何年に広まったんですか？

平岩 日本でNPO法が制定されたのは九八年だから、それ以降ですね。

私は医療情報の橋渡しに関心があつたので、アルツハイマー・アソシエイションという、アルツハイマーの家族の人たちをサポートするNPOにも調査に行きました。

私がつとも影響を受けたのは、ジュディ・ウンシユさんという白髪が素敵なおばさま。週五日、合計四十時間も無給でボランティアコーディネーターとして働いていたんです。彼女は、教育学博士で長年大学で教えていたのに、母親がアルツハイマーで痴呆が始まった時、仕事をやめ看取ったそうです。そ

新古茶道具 あけび園

〒169-0073

東京都新宿区百人町2-11-25

新戸山ビル2階

(JR山手線 新大久保駅前)

電話 03(33363)2233

の経験から、アルツハイマーの患者や家族を社会的に支えていくことが重要であると思ひ、仕事に復帰する時、この団体を選んだということ。自分は今どういう役回りをしたら一番いいのだろうと考えた時に、私はここでボランティアをするのがベストだ、と思つたからやつてるだけ。夫の収入もあるし、私に払うそのお金で有能な他のスタッフを雇える。彼女が当たり前みたいなのを聞いて、すごいなーって感激してしまつたの。

森 人と比べるとじゃなくて、すごく自立してプライドをもつてるんですね。同じ組織の中に、有給の人とボランティアの人とが併存している。

平岩 これもアメリカで学んだことですけど、



アルツハイマー・アソシエーションでボランティアコーディネーションを担当するジューディー・ウンシュさん



日本ロシユ時代の平岩さん

ボランティアはやることに意味があるのではなくて、何らかの成果を出して、その人の力が本場に生きてこそ、ボランティアを活かしたことになるんですよ。

森 日本では、この指止まれで、やりたい人が誰でもいっしょにやろうといっています。アメリカは、この目標に対してどういう人材が必要かと考えるようですね。

COML東京でのNPO活動

平岩 そうなんです。アメリカ研修で感化されて、「COML (Consumer Organization Medicine and Law) 東京」という市民グループの活動に以前より力を入れるようになりました。この団体は、「賢い患者になりましたよ」を合言葉に大阪で始まった活動を母体にしています。患者が医者いいなりになるのではなく、自分の体のことだから自分で考えよう、そのためにどうしたらいいのかを患者と患者がひとつのテーブルで話し合おうと、「患者塾」をこれまでに五十回ほど開いてきました。七年前からは毎年、東京医科大学の学生さんたちを、夏休みに五日間、実習生として受け入れるようになり、患者の立場に立った医療のあり方をいっしょに考えています。

森 COML東京の活動は、電通総研のお仕

事の合間にされるんですか？

平岩 そうですね。でも最近はお仕事が忙しくて、私の活動頻度はかなり減っています。他のスタッフも皆、医療ライター、薬剤師などの本職をもっているのでも申し訳ないんですけど。私たちが共有している思いは、「医療のあり方を変えたいね」ということ。それを実現していく上で、患者への啓発活動だけでは物足りなくなってきたので、私たちは今年、「納得して医療を選ぶ会」という新しい組織をつくりました。患者も医療者も、治療にかかわるすべての人が、「それぞれの立場から見たベストな医療について話し合い納得した上で選択する」環境を整えなければ、良い医療環境は実現しないと……。

中央アルプスを背に
信濃路の自然にだけこむ
一期一会の
茶寮あり。

正午の茶事コースの他に朝茶、夜咄など、要望により用意させていただきます。はじめての方もお気軽にどうぞ。

国指定名勝光前寺庭園隣
料亭旅館
茶寮 なかやま
多子

長野県駒ヶ根市赤穂35番地の6 千399-4117
TEL 0265-83-5228 代
FAX 0265-82-5635



「谷根千」もNPO

平岩 private、森さんの地域誌『谷中・根津・千駄木（愛称「谷根千」）を読んで、これはまさにNPO的な活動だと思ったんです。

森 NPO（非営利）なのは確かですが、そ

ひらいわ・ちよこ

一九五八年、神奈川県藤沢市生まれ。

早稲田大学教育学部理学科卒業。

日本ロシユ(株) 日本ロシユ研究所勤務を経て、八七年七月、電通総研設立時に入社。

現在主任研究員。主な研究テーマは「企業とNPOのコラボレーション」「企業の社会的責任」。

志をもって働く人や組織を支えるしくみづくりに取り組む。私生活でも「NPO法人まちづくり情報センター」かながわ（通称アリスセンター）の理事、「COML東京」「納得して医療を選ぶ会」の活動に参加。

もり・まゆみ

一九五四年、東京都文京区生まれ。作家。

早稲田大学政経学部卒業。

一九八四年、季刊の地域誌「谷中・根津・千駄木（愛称「谷根千」）を創刊。

主な著書に「谷中スケッチブック」「にんげんは夢を盛るうつわ」などがある。

谷根千工房において（右側が森さん）

の頃NPOっていう言葉はなかったし、そういう横文字に規定されたいとも思わなかった。ただね、NPOという言葉が出てきて、世間に認知されたから、みんなに説明しやすくなりましたね。それまでは、「仕事なの？ 趣味なの？」とか「もうけるつもり？ ボランティア？」とか「二分法で問われていましたから。

平岩 森さんたちのように、自分が愛着をもつ地域を活性化するために各自が得意技を持ち寄って働くというのは、一番贅沢（ぜいたく）じゃないかと思えますよ。

最近若い人たちの間でも、こうした志と能力をもってNPOで働く人たちが増えてきているんですが、問題は、給料が安く生計が成り立たないケースがほとんどであることです。だから、地域や社会を良くするために働く人たちを、金銭的に支えるしくみが必要だと思います。日本では寄付のほとんどは企業が出していますが、個人がもっと寄付しやすいくみも必要ですね。

森 寄付すると、税金免除にならなくては。それと、本当にピュアな志をもった、能力の高い人たちにきちんと資金を提供するための、フェアな審査システムがないといけないでしょう？

平岩 そうだと思います。多くの人が関心をもつて、例えば「千代田区まちづくりサポート」のように、公開の場で皆で討論しながら助成先を決定していくというのも、一つの新しい方法じゃないかしら。

森 今年五年目で先行きを心配していましたが、助成金も総額が三百万円から五百万円に増えたと、応募件数もどんどん増えていま

すね。

でもねー、真剣にやるからあの審査は勉強になるけど、ホントくたびれる(笑)。

平岩 審査員自身が審査されているようなものですよ。

森 官庁や他の財団では、密室で決まってしまうことが多いから、皆が納得いく形で、決ままでの過程が見えるスタイルは珍しいんです。あと、申請書がすごく煩雑だと、そういうのを書くプロみたいな人がいる馴れたところが、助成金をよく取得するようになる。申請書やレポートを書く技術も必要なのですが。

企業とNPOのパイプとして

森 で、今は何に関心があるんですか？

平岩 今は、企業とNPOを結びつけることに一番関心をもってるんですよ。市民社会が

到来するといわれている中で、いまNPOに一番関心をもっているのは、行政なんです。補助金もたくさん出しますし。

森 でも、介護や給食サービスといった福祉をNPOに下請けさせているケースも多いですよ。

平岩 そうなんです。NPOで重要なのは、行政から独立して主体的な活動をする。そのためには、NPOが独自財源をもつことが重要で、収益事業を確立したり、企業、市民からの寄付を増やすことがすごく大事だと思うんです。不況とはいっても、社会的に有益な活動を、寄付だけでなく本業を活かして

支援したいという企業は少なくないですよ。

私は企業の研究者という立場にいるので、NPO、行政、企業の三者を比較的深く見ることができるとは思います。それを活かして「新しい社会的な価値」をつくるためのコーディネーター役をしたいですね。

「森まゆみのメモ帳より」

イベントやメディアの仕掛け人「電通」というだけで、私の中にかすかな反感がある。だが平岩さんはその立場を超えて、いつも公平で前向きで、世の中を良くすることに一所懸命。けっして自分をひけらかしたり自慢したりしない。年下だけど、尊敬は深まるばかりだ。

おいしいお茶、お詰めは京都福寿園でございます。

鵬雲齋宗匠御好

濃茶 平安の昔

薄茶 精華の白

坐忘齋宗匠御好

濃茶 栄松の昔

薄茶 素心の白



京都店

四条通富小路角
☎075(211)1501

四君子(無量庵)

貸茶室ご利用下さい。
ウエスティン都ホテル京都3階
☎075(752)0148

関西国際空港店

旅客ターミナルビル3F
☎0724(56)6460

世界の茶の学習にご見学にお越し下さい。
(要予約)



福寿園CHA研究センター
京都府木津町相楽台
☎0774(73)1200

本社・山城工場 京都府山城町上狛
☎0774-86-2029

http://www.fukujuen.com